

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。→(76.1%)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度末より減少させる。→(1.85%→3.43%)</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度末の不登校児童の改善の割合を増加させる。→(100%→100%)</p> <p>○小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。→(66.6%)</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大空コンサートの取組や校外学習などを通して仲間づくりを行い「人を大切にする力」を養うと共に、児童が自主的・意欲的に取組める活動を工夫する。 <p>指標：「子どもアンケート」で、「人を大切にする力がついている」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合を57%以上にする。 →(44.2%)</p>	C
<p>取組内容②【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとの「いのちを守る学習」で防災・減災について学び、学んだことを自分の身の回りの生活や普段の行動に活かすことができるような取組を進める。 <p>指標：「子どもアンケート」で、「『いのちを守る学習』を通して、自分の命は自分が守る力がついている」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。→(61.5%)</p>	C
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通した「道徳の時間」や「ふれあい科」などの中で、異年齢の児童がそれぞれの役割を果たして協働する経験を積み重ね、自分のよいところや友だちの良いところに気づくことができ、「自分を表現する力」を高めることできるような取組を進める。 <p>指標：小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度以上にする。(昨年度 73.9%) →(66.6%)</p>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 「いじめ・いのちについて考える日」には学校長の講和とともに各クラスで道徳科の授業を通し、児童一人ひとりがいじめやいのちについて考える機会を設けた。また、毎学期のいじめアンケートや毎日の心の天気を実施することで、いじめ問題等の早期発見に取り組んでいる。児童の状況は、夕会の場で共通理解を行い、解決に努めている。4つの力の一つである、「人を大切にする力」を今後も児童一人ひとりが高めていける取組を継続する。
- 不登校児童の保護者とコミュニケーションをしっかりと取り家庭での様子や不登校サポート機関での活動状況等について情報を共有しながら、登校支援に取り組んでいる。また、学校と区役所・こども相談センター・地域や不登校支援機関等の関係諸機関と連携を深め不登校対応を行っている。
- 通級ルームの活用や新たに不登校支援教室開設した。より柔軟な登校に対応しながら不登校児童の学習機会を保持している。
- 現在、昨年度完全不登校となっていた児童は5名であったが、全員出席日数が増えており改善傾向にある。一方、新たに今年度から不登校傾向（30日以上の欠席者）にある児童を含めて8名おり、今後も保護者や外部関係機関と連携を強め、校内支援体制の整備等に取り組んでいく。
- 小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が66.6%と目標の数値（75%以上）に届かなかった。次年度は、コンサートや運動会に加え、作品展を新たに実施することで、様々な表現で児童が輝ける場を設定し、一人ひとりの自己肯定感が高まることに繋げていく。

取組内容①【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】

「子どもアンケート」で、「人を大切にする力がついている」に対して最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答した児童の割合は44.2%であった。目標の数値には届かなかつたため、引き続き学校行事だけでなく、普段の学習から児童同士を繋ぐことを意識して授業づくりを行う必要がある。

取組内容②【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】

- ・学期ごとに「いのちを守る学習」を計画・実施し、防災・減災について学ぶことができた。
 - 1学期：6月14日（地震）
 - 2学期：9月3日（880万人訓練）、11月20日（地震・津波）
 - 3学期：2月26日（火災）
- ・「子どもアンケート」で、「『いのちを守る学習』を通して、自分の命は自分が守る力がついている」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答した児童の割合が61.5%（前年度比-7.2p）で、70%以上にするという目標が達成できなかつたが、「だいたいそのとおりだと思う」と回答した児童を含めた肯定的回答の割合は93.6%（前年度比+5.3p）だった。
- ・「学校安全管理マニュアル」や「警備・防災計画書」について、教職員の理解を深める校内研修を実施し、教職員が率先して防災・減災について学んだことを自分の身の回りの生活や普段の行動に活かすことができるようとする。

取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

- ・年間を通した「道徳の時間」や「ふれあい科」などの中で、異年齢の児童がそれぞれの役割を果たして協働する経験を積み重ね、自分のよいところや友だちの良いところに気づくことができ、「自分を表現する力」を高めることできるような取組を進めることができた。しかし、小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は昨年度と比較し、-7.3p の 66.6%だった。
- ・コンサートや運動会に加え、作品展を新たに実施することで、様々な表現で児童が輝ける場を設定し、一人ひとりの自己肯定感が高まることに繋げていく。

次年度への改善点

- いじめの定義やいじめ対策の基本理念等を教職員で共有し、未然防止や早期発見に向け今後も夕会やいじめ防止対策委員会などを通して情報共有を継続して行う。
- 学校全体で毎日の「心の天気」の活用に取り組み、児童の SOS のサインを見逃さない組織体制を構築する。
- 別室対応、関係諸機関の連携など、個々の児童に応じた支援をさらに推進する。
- 不登校児童の安全安心な居場所づくり（校内サポートルームの設置）等の校内支援体制の整備に取り組む。
- 「ふれあい科」のコンサートの学習や運動会、作品展等、学校行事全般を通して、自分のよいところや友だちのよいところを伝え合う活動の時間を確保する。
- PDCA サイクルのもと改善点を整理しながら継続して「いのちを守る学習」に取り組んでいく。

大阪市立 (学校園名) 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を39%以上にする → (38.2%)</p> <p>○小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も0.01p向上させる。→ (4年:-0.02 5年:-0.09 6年:-0.03)</p> <p>○小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も0.01p向上させる。→ (4年:0.01 5年:-0.16 6年:-0.03)</p> <p>○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。→ (84.3%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。→ (73.4%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。→ (64.4%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・年間を通して様々な活動において「自分の思いを表現することを意識づけ、表現力の向上をめざす。</p> <p>指標：小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合（昨年度38.5%）を昨年度以上にする。 → (38.2%)</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・全学年で授業研究に取組、ICTの活用や教材の工夫等を行うことで児童の意欲や興味関心を高める。</p> <p>指標：「子どもアンケート」で、「授業がわかりやすく楽しい」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合（昨年度50%）を昨年度以上にする。 → (39.7%)</p>	C
<p>取組内容③【基本的な方向5 体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <p>・体育の時間だけでなく、「ふれあい科」などでも楽しく体を動かせる遊びに取り組み、基礎体力の向上をめざす。</p>	B

指標：「子どもアンケート」で、「友だちと運動したり、遊んだりすることが楽しいに
対して、最も肯定的に回答する児童の割合（昨年度 82%）を昨年度以上にする。→
(81.7%)

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○小学校学力経年調査の国語と算数の平均正答率の対全国比においては、同一母集団において 4 年生の国語 0.03 算数 0.00、6 年生の国語 0.02 算数 0.00 と向上したが、5 年生は国語-0.07 算数-0.18 と下降した。引き続き学力向上支援事業を活用して授業力向上に努め、PDCA サイクルでさらなる取組を進める。

- ・小学校学力経年調査質問における「理科」及び「外国語（英語）」の勉強については、肯定的に答える児童の割合が目標値を下回った。引き続き授業に興味を持てるような工夫を行っていく。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、目標値は同様であった。児童が主体的に目標（値）を設定して体力・運動能力向上に取り組む体育学習の展開等、教員の授業改善に取り組む必要がある。また、日常的に児童が運動に慣れ親しむことができる運動環境の整備にも力を入れて取り組んでいく。

取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・研究の視点に「自ら考える」「共に学び合う」「校内 ICT の効果的な活用」と設定した。自ら考えようとする意欲を喚起し、友だちとの関わり合いを通じて、自分の力や考えを形成し、口頭・文章など様々な形で表現することができるような授業作りをめざしてきた。さらに、ICT 機器を積極的に用いることで、意欲のさらなる喚起や端末を用いた新たな表現法の創出をめざしてきた。学習意欲が高まり、考えを形成し、表現しようとする児童が増えつつある。しかし、基礎的な学力や学習姿勢の定着が十分でなく、浅い表現になってしまふことがしばしば見られる。また、相手意識が薄く、自分の思いや考えをうまく伝えられなかつたり、相手の考えに傾聴し考えを深めたりすることが難しい。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、今年度 38.2% と、昨年度より 0.3%（約 1 人）下がっているが、昨年度と同水準を維持している。
- ・肯定的な「どちらかといえば思う」と回答する児童に拡げ、各チームの実態をみると、中学年 80.4%（大阪市 79.5%）、高学年 60.9%（大阪市 77.5%）と、大阪市に比べて、中学年は 0.9% とやや上回っているが、高学年は 18.6% と大きく下回っている。中学年から高学年への変化は、本校マイナス 19.5%、大阪市マイナス 2.0% と、本校・大阪市ともに下がっているが、本校のマイナスは大阪市のそれの約 10 倍である。
- ・話すこと（相手に伝わるように話す）・聞くこと（相手の話を傾聴する）の力が十分でない実態も、本校児童全体の傾向として強く感じられる。児童の幅広い個性・特性のため、寄り添うことで意思・意図を聞き、つかもうとする関わりが必要であるが、その反面、児童が必死に伝えなければという気持ちがわきにくく、その力が高まりにくいと考える。以上の結果を総合すると、話し合い活動に必要な話すこと・聞くことの向上に、学校を全体で取り組む必要がある。さらに、下の学年のうちにしっかりと指導し、児童に力をつけておくことが重要である。これは、4 つの力の「人を大切にする力」と関連づけての指導が可能である。

取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・子どもアンケートで、「授業がわかりやすく楽しい」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合は、今年度は 39.7%であり、昨年度の 50%より、10%下がっている。しかし、今年度の最も肯定的な回答(以下①)と次に肯定的な回答(以下②)の合計は 87.2%と、昨年度の合計の 85.1%より 2.1%上がっており、方向性としては適正である。しかし、校内 ICT の効果的な活用が、「授業がわかりやすく楽しい」の一助にはなっているものの、根本的な解決策にはなっていない。
- ・各チームの①・②・合計は、低学年①50%+②41%=91%、中学年①43%+②47%=90%、高学年①24%+②58%=82%となっており、学年が上がるにつれて肯定的でない方向に回答がシフトしていることと、中学年から高学年への段階での下がりが大きいことがわかる。学習内容が高度になるにつれて、具体的にイメージしにくい物事が増えてくるとともに、学習に意欲や興味関心を持てない児童が増えているともいえる。ICT を活用した時の意欲の高さは、この 2 年間で強く実感しており、ICT 活用を今後も推進していくことは必須である。それに加え、児童がたくさんの物事・知識にふれる学習・体験・経験ができるように学習を計画するのが良いのではと考える。

取組内容③【基本的な方向 5 体力・運動能力向上のための取組の推進】

- ・子どもアンケートで、「友だちと運動したり、遊んだりすることが楽しい」の項目に対して、最も肯定的に回答する児童の割合は、昨年度と同様の 82%であった。数字上、横ばいではあったものの、昨年度の数値を上回ることはできなかった。体育の授業中に友だち同士と繋がる活動を意図的に増やしたり、休み時間には外に出て遊ぶように運動委員会などで呼びかけをしたりしていきたい。

次年度への改善点

- 次年度も学力向上支援事業を活用して教員の授業力アップに取組を進める。児童の「授業がわかりやすく楽しい」という思いが、小学校学力経年調査の正答率向上につながるような学習活動を進める。
- 現在の児童の実態を考慮すると、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」ことをめざすためには、教員が話し合い活動のモデルを提示したり、話し合いをファシリテートするなど、指導の工夫が必要である。発達段階に応じて、まずは話し合いにおける意見の聞き方と自分の意見の伝え方を指導し、意見交流やグループディスカッション、ディベートなどといったさまざまな話し合い方法を通して考え方を深める学習に各教科で取り組む。またそうした成果を、集会での発表などを通して報告する機会を設定し、学びが学校生活に役立つ実感を持てるようにスマルステップで取り組んでいく必要がある。
- 全国学力学習状況調査では、国語科・算数科ともに平均正答率が全国や大阪市の平均比を大きく下回った。この厳しい現状を踏まえ、これまでの教育課程を見直し、基礎学力の定着を図るために校内組織の編成、校内研究・研修体制の充実等に取り組んでいく。
- 運動場の環境整備を推進し、休み時間などで、児童自らが体を動かしながら遊べる仕掛けづくりを企画・運営していく。

大阪市立 (学校園名) 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○校内調査より、授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。→ (16.1%)</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。→ (65.8%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「心の天気」の活用や、ICTの活用に関して外部講師を招いての教員研修を行うことで、一人一台端末の有効な活用を推進する。 <p>指標：毎月の学習者端末の活用状況について周知を図り、授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。→ (16.1%)</p>	C
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事の在り方の見直しや精選を行い、職員の働き方を考慮すると共に、職員間で気軽に話ができる、一人で抱え込むことのない風通しの良い職場づくりに取り組む。 <p>指標：第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。→ (65.8%)</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> SEA活動やはぐくみネット、学校協議会での意見交換などの在り方を見直し、さらに充実させることで地域との協働を推進する。 <p>指標：「保護者アンケート」(学校評価・外部アンケート)で「自分はサポートの一員として、大空小をつくっている。」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を50%以上にする。→ (44.6%)</p>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>○昨年度より研究部を発足し、ICT(一人一台学習者用端末)を活用した授業の推進に取り組んだ。</p> <p>○カリキュラム検討委員会を発足し、授業時数削減や行事の精選等を行った。各教職員自身が時間外勤務時間を把握できるように「見える化」を進める等、更なる業務改善につながる働き方改革を推進していく。</p>
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末利活用率の月平均を見ると、4月 49.3%, 7月 58.5%, 9月 60.9%, 10月 70.3%と上昇傾向にある。 授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にするという目標に対して、16.1%と目標に大きく届かなかった。その要因として、授業で学習者用端末を活用する機会を増やすことができなかったり、朝会や児童集会が

あるため、思うように「心の天気」の入力が進まなかったりということが考えられる。次年度は、授業で積極的に学習者用端末を使用するだけでなく、朝 ON 夕 OFF の徹底や「心の天気」の入力を習慣化するなどの工夫が必要である。

- ・ICT 支援員による SKY MENU の基本操作の研修や ICT 推進リーダーによる ICT 活用研修を実施し、教職員の ICT 活用スキル向上に取り組んだ。
- ・学習者用端末の活用状況（授業日において児童の 8 割以上が学習者端末を活用した日数）は、11 月の段階で 44.7%まで上昇させることができていたが、伸び悩んでいる。

4月	5月	6月	7月	8月	9月
0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	10.5%
10月	11月	12月	1月		
27.3%	44.7%	31.3%	25.0%		

取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす割合は 65%で、指標の 60%を達成することができた。次年度は、今年度以上に行事の在り方の見直しや精選、会議の持ち方の工夫を行い、時間外勤務時間の削減に取り組むことで、教員の研修への積極的な参加や教材研究、指導法の研究等の時間の確保に取り組んでいく。
- ・夕会やカリキュラム検討委員会等で、教職員が意見を出し合い新たな教育活動を生み出す、風通しの良い職場環境づくりに取り組む。
- ・早帰りの日（17:30 退勤）や定時退勤日（17:00）等を設定し、教職員の心と体の健康の促進に取り組む。

取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】

- ・「自分はサポーターの一員として、大空小をつくっている。」という項目に対し、肯定的に回答する保護者の割合は 44.6%で指標の 50%まで 5.4p 届かなかったが、昨年度に比べ 2.4p 高い。今後も SEA やはぐくみねっと等協働しながら、多くのサポーターの方に学校へ来ていただけるような取組を推し進めていく。

次年度への改善点

- 「心の天気」の活用をより定着するように進めていく。
- ICT を活用した学習機会は増加している。今後も有効な活用方法を共有し、積極的に進めていく。
- 時間外勤務時間の削減に取り組み、研修への積極的な参加や教材研究、指導法の研究等の時間を確保できるよう、取組を進めていく。
- 学校・地域・サポーター・それらを取り巻く関係諸機関等が一体となって協働した学習活動の推進に取り組む。